

学校法人京都外国語大学
京都外国語短期大学
機関別評価結果

平成23年3月24日
財団法人短期大学基準協会

京都外国語短期大学の概要

設置者	学校法人 京都外国語大学
理事長名	森田 嘉一
学長名	松田 武
ALO	奥川 義尚
開設年月日	昭和25年4月1日
所在地	京都府京都市右京区西院笠目町6

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
キャリア英語科第二部		140
		合計 140

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

京都外国語短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 23 年 3 月 24 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 21 年 7 月 3 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学を設置する学校法人京都外国語大学は、昭和 22 年に創設された京都外国語学校を源流とする学校法人である。同法人は当該短期大学のほかに大学、高等学校、専門学校を設置している。「PAX MUNDI PER LINGUAS 一言語を通して世界の平和をー」を建学の精神として、言語を通じて世界平和に貢献することを目的に外国語及び国際社会と地域文化に関する教育・研究を行っている。

教育課程は、建学の精神を背景として学科の特色を生かした教育課程が体系的に編成されている。またファカルティ・ディベロップメント（FD）活動への取り組みは早く、教育の改善を目指した努力が常に行われている。所属教員は教育研究上の業務に加え、授業内容の見直しや改善について意欲的に取り組んでいる。

短期大学設置基準に定められた学科に必要な教員数は充足しており、教員の採用、昇任は規程に基づき適正に行われている。教員としてふさわしい人材を各年代バランスよく配置している。校地・校舎の面積は短期大学設置基準に定める面積を満たしており、講義室、演習室及びその機器備品等も整い適切な教育環境となっている。図書館蔵書数、学術雑誌数、AV 資料数及び座席数等は在学学生数に対して適当であり、図書館とそのサービス内容は充実している。

授業の単位認定方法は総合評価により適切に行われている。また学生満足度調査が年間 2 回実施され、その結果は授業科目ごとにフィードバックされている。卒業生は専門性を生かした就職が可能であり、その就職率は高くはないが、ある程度の水準は保たれている。一方、進学率は高い割合が維持されている。卒業後評価も行われ在学時のキャリア教育に反映されている。

研究活動については併設大学に研究所を設置し研究活動を支援する体制の整備及び研究資金の拡充による研究環境の整備を通じて研究活動の活性化を図っている。

学生支援においても学習上の指導助言のためにアカデミック・アドバイザー制度を導入し、学生生活に対する支援でも内科医、心療内科医を校医としたカウンセリングが受けられるなど、十分な体制が確立されている。進路支援ではキャリアサポートセ

ンターを中心に学生の特性に応じたきめ細かな指導が行われている。また図書館は学生の要望にこたえるよう開館時間が工夫され、加えて多様な貴重書を蔵し地域社会へ開放するなど、特徴ある図書館活動を展開している。

社会的活動については、地域社会への貢献を重要な課題と位置付け、地域へ向けた講座の提供や市と連携した地域支援活動、観光都市京都という地域性を生かした学生のボランティア活動を単位化するなど、意欲的に行われている。

理事長及び学長は共に短期大学の管理運営にリーダーシップを発揮し、常にその教育と学園を支える財政基盤の強化に努めている。

当該法人の財務運営は適正に行われ、財務情報はウェブサイト等において広く公開されている。安定した収入確保と支出の抑制、教育研究活動・環境の持続的な充実を具体化した「安定的な財務基盤の確保の確立」を財務方針として運営されている。財務体質については、短期大学部門の消費収支が過去3ヶ年支出超過となっているものの、学校法人全体の消費収支は過去3ヶ年にわたり安定している。

施設設備等について固定資産管理、図書管理、消耗品及び貯蔵管理等は規程が整備されており、防災対策、環境保護についても配慮がされている。

毎年度発行の「アカデミックレポート」はウェブサイトに掲載し、保護者、卒業生及び企業からも評価を得るための努力をしている。

また、学長は社会の高齢化と人々にニーズの多様化が進んでいることを認識しており、今後の短期大学の在り方として、これまでの若者中心の教育に加えて社会人や高齢者を対象としたリカレント教育、生涯教育、人生の体験知を広く社会に還元するためのエンパワーメント教育を掲げており、地域のニーズにこたえ地域の人々に支えられるコミュニティ・カレッジとして更なる充実、向上を目指している。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 早い時期から FD 活動の取り組みが行われ、授業内容の見直しや改善の努力をしている。
- シラバスはオンラインでの閲覧が可能であり、加えて CD-ROM でも配布され、学生の理解に役立つよう努めている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 多様な貴重書を蔵し「特徴ある図書館活動」を展開した結果、マスメディアへの資料提供、博物館への出展協力、雑誌への写真提供等、数多くの協力依頼に応じるに至った。

評価領域Ⅵ 研究

- 個人研究費は十分に確保されている。専任教員には毎年教育・研究業績等の提出を義務づけ、「京都外国語短期大学アカデミックレポート」をウェブサイトと CD-ROM により公表している。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 京都市教育委員会が行っている小学校・中学校・高等学校での学内サポート事業「学生ボランティア」や、観光都市京都という地域性を生かした課外活動団体が行う外国人観光客への英語ガイド活動に対して、大学の支援を行い、単位化されている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 日本語の言語的孤立、かつ歴史的な変遷から外国語を習得しようとする者にとって不可欠と思われる創立者のうたわれた「不撓不屈」の理念を学生に啓発するとともに、片時も忘れることなく語学教育に反映させて欲しい。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 成績評価において不可の割合が極めて大きい科目が少なからずあり、退学者・除籍者数の割合も高いので、努力はしているが更なる対応が望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

- 短期大学部門の消費収支については、過去 3 ヶ年ともに支出超過で、その幅も大きいので、財務体質の改善が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神である「PAX MUNDI PER LINGUAS 一言語を通して世界の平和をー」は教育活動の基盤として確立しており、学校案内やウェブサイト等を通して学外に対して詳しく明示するなど、広く公表している。在学生については入学後のオリエンテーションや授業等において周知し、教職員に対しては理事長・学長より年頭、各種行事等の機会において周知徹底されている。

教育目的・教育目標について、学長指導の下で各種委員会が理事会、教授会との連携を図り教育目的・教育目標を計画、点検し実施している。また自己点検・評価活動において、毎年の見直し等、所要の検討を行っている。また教育目的・教育目標は学内外ともに詳しく広く公表され、教職員へ周知と理解を促している。

評価領域Ⅱ 教育の内容

建学の精神・教育理念を背景として学科の特色を生かした教育課程が体系的に編成されている。教養教育、専門教育も特色を生かしたものになっており、短期大学の専門教育として十分な内容となっている。また、取得可能な資格についても配慮がされ、学生のニーズにこたえるものとなっている。

シラバスはオンラインでの閲覧が可能であり、加えて CD-ROM での配布を行うなどの配慮がされ、その内容は学生が理解しやすいように細かく丁寧に表現されている。

当該短期大学の FD 活動への取り組みは早く、短期大学独自で併設大学より先に始まっている。現在は併設大学との共同開催であるが、その分科会において短期大学独自の検討項目を設定し教員の資質向上に努めている。授業内容及び教育方法への改善

努力が常に行われている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

短期大学設置基準に定められた学科に必要な教員数は充足しており、教員の採用、昇任については規程に基づき適正に行われている。教員としてふさわしい人材を各年代バランスよく配置している。教員は教育研究上の業務に加え、授業内容の見直し、改善についても意欲的に取り組んでいる。

当該短期大学の校地・校舎の面積は短期大学設置基準に定める面積を満たしており、講義室、演習室及びその機器備品等も整い適切な教育環境となっている。

図書館蔵書数、学術雑誌数、AV資料数及び座席数等は在学学生数に対して適当であり、図書館とそのサービス内容は充実している。

また、マルチメディア教育研究センターも設置されており情報処理機器等も充実している。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

授業の単位認定方法は総合評価により適切に行われている。また学生満足度調査が年間2回実施され、その結果は授業科目ごとにフィードバックされている。これによって教員が、授業姿勢や授業内容の理解度等、学生の実態を客観的に把握し、自らの教育を向上・改善する体制が整っている。また、休学者・退学者を減じるべく学生相談室、心療内科医によるカウンセリング等の組織的な対応を行っている。

卒業生は専門性を生かした就職が可能であり、その就職率は高くはないが、ある程度の水準は保たれている。一方、進学率は高い割合が維持されている。卒業後評価も行われ在学時のキャリア教育に反映されている。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学者支援について多様な入学者選抜方法が用意され募集要項も分かりやすく詳細に明記されている。入学手続者に対しては説明冊子や推薦図書一覧等を送付するといったサービスが行われており、入学者支援は適正に行われている。

学習支援について、オリエンテーション等による十分な説明により学習の動機付けにあわせた科目選択ができるよう配慮され、加えて習熟度別のクラス編成、学習上の問題や悩みに対する指導助言のためのアカデミック・アドバイザー制度等、組織的な学習支援が行われている。また生活支援においては内科医や心療内科医が校医として在駐するなどの配慮がされている。

進路支援については授業やキャリアサポートセンター等において学生の特性に応じた具体的な実施計画を立て指導、助言を行っている。総合的に判断して、学生に対する組織的な支援体制は整っているといえる。

評価領域Ⅵ 研究

研究活動については併設大学の附置研究所である国際言語平和研究所が管理する体制で、専任教員の教育活動、研究活動等を支援する体制の整備及び研究資金の拡充による研究環境の整備を通じて、教育・研究活動の向上を図っている。専任教員には毎年教育・研究業績等の提出を義務付けている。

研究業績は、年間の基準と目標値を設定し、業績の区分ごとにデータベース化して管理されている。各教員は目標値を達成することを念頭に置いて活動している。

平成 3 年より教員の教育・研究等を掲載した「京都外国語大学アカデミックレポート」を刊行している。そして平成 17 年度には短期大学独自での「京都外国語短期大学アカデミックレポート」を分冊とし、平成 18 年度よりその分冊をウェブサイトにも掲載するほか CD-ROM も作成し広く社会へ公開している。

評価領域Ⅶ 社会的活動

地域社会への貢献を重要な課題と位置付け、社会人学生の受け入れ、地域へ向けた公開講座、雇用保険受給者に対するスキルアップを目的とした講座等へ取り組んでいる。

学生の社会活動について、京都市と連携し地域の小学校、中学校、高等学校の生徒を対象とした、教科や部活動の指導補助を行う「学生ボランティア」や日本語指導講師の派遣等を行っている。

短期大学公認の課外活動団体においては京都市内の神社・仏閣等で外国人観光客ガイドのボランティア活動も行っている。

平成 21 年度からは学生のプロジェクトを支援するシステムを新設し学生発案の社会活動、ボランティア活動の活性化に努めている。教育研究成果を還元するとともに、地域に根ざした短期大学を目指し活発な諸活動が行われている。

また、海外の大学等と協定を結び学生交流を図り、留学生の相互派遣等が実現されている。

評価領域Ⅷ 管理運営

寄附行為に基づいて管理運営全般が適切に行われており、理事会、常任理事会も適切に開催されている。副理事長は理事長の補佐役として円滑な連携を保っている。監事は毎回の理事会、評議員会に出席し、運営への参画を行っている。

教授会、各委員会は規程に基づいて適切に運営されている。学長は教育・研究に関する業務全てを統括する責任者として副学長や科長と円滑な連携を図っている。

事務局は規程に基づき適切に業務を行っており、その規模は適切である。人事管理について「学校法人京都外国語大学就業規則」、「学校法人京都外国語大学教員給与規程」に基づいて適切に運用されている。

評価領域Ⅸ 財務

法人の経営状況及び財務状況は適正に表示され、その内容はウェブサイト等において広く公開されている。安定した収入確保と支出の抑制、教育研究活動・環境の持続的な充実を具体化した「安定的な財務基盤の確保の確立」を財務方針として運営されている。

学生数は総定員に対して過去 3 ヶ年にわたり充足している。監事及び公認会計士の監査も適切に行われており、短期大学部門の消費収支は 3 ヶ年支出超過となっているものの、学校法人全体の消費収支は過去 3 ヶ年にわたり安定している。

施設設備等について固定資産管理、図書管理、消耗品及び貯蔵管理等は規程が整備されており、防災対策、環境保護についても配慮がされている。学校法人の財務運営及び体質は健全に維持されている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

学則に自己点検・評価に関する条項を明文化した規定が制定されており毎年自己点検・評価を実施するなど、全学的に自己点検・評価活動に取り組んでいる。学長・副学長をはじめとした活動体制、FD、スタッフ・ディベロップメント（SD）の研修制度も確立されており、多くの教職員が関与するよう配慮されている。

またステークホルダーとなる保護者、卒業生及び企業からも評価を得るために毎年度発行の「アカデミックレポート」はウェブサイトに掲載し広く社会に公開している。改革・改善について積極的な取り組みがされている。